

令和元年度第3回秋田市社会福祉審議会児童専門分科会
(秋田市子ども・子育て会議) 会議録

1 日時 令和元年10月25日(金) 午後3時00分～午後5時00分

2 場所 秋田市役所 5階 正庁

3 出席者

(1) 委員(10人)

奥山順子会長、相場哲也委員、澤口勇人委員、廣嶋禮治委員、
古田由美子委員、福田廣美委員、山崎純委員、渡辺丈夫委員
新田清季委員(委任状)、鶴田悦子委員(委任状)

(2) 事務局

子ども総務課長(佐々木良幸)、子ども育成課長(夏井保)、
施設指導室長(脇坂正憲)、子ども健康課長(加賀谷洋子)、
子ども未来センター所長(新田目剛)、ほか関係職員

4 傍聴者 4人

5 会議の内容

○開会

○議事

「(仮称)第3次秋田市子ども・子育て未来プラン」(素案)の検討について

○閉会

6 議事要旨

○奥山順子会長

それでは、議事の(1)「第二次秋田市子ども・子育て未来プランの最終評価について」事務局より資料1の説明をお願いします。

【事務局説明】

○奥山順子会長

ただいまの説明に対して、質問や意見はあるか。

○澤口勇人委員

P16の【施策1-2】について、保育士不足は深刻であり自助努力だけではどうにもならない状況である。保育士の確保について、具体的な施策を講じてほしい。

P17の【施策1-3】について、出生数が2,000人を下回っている状況でこれ以上施設を増やす必要があるか。本当に保育を必要としている人を精査することで、現在の供給量で対応できるのではないか。

また、休日保育については、多様なニーズがあるものの、受け入れ体制などに限界を感じている施設があるということを確認いただきたい。

P30の【施策7-1】について、児童虐待は増える一方であり、子どもたちが健全に育つ環境にない。今後秋田市でも児童虐待に関する大きな事件が起きてしまわぬよう、考えていかなければならないと考える。

P32の【施策7-3】について、障がい児も一緒に生活できる環境の整備をもっと図っていかなければならない。

P33の【施策7-4】について、副食費の補助が行われぬまま、10月1日をむかえた。来年度以降の補助についても全額の補助とならないのではないかと印象を持った。できるだけ早期に経済的負担の軽減をして欲しい。

全体的な話として、この子ども・子育て会議だけではなく、秋田市の子育てについて、様々な意見を持っているかたも多くいるため、パブリックコメントを実施したほうがよいと思う。

○奥山順子会長

ただ今のご意見に関連するご意見はあるか。

○山崎純委員

保育士不足に関しては私自身も感じており、やるせない気持ちがある。休日保育についても、共働き世帯が増えていることから、子育て施策として欠かせないものになるのではないかと感じている。そこで例えば、資料2に記載のある区域ごとに順番で休日保育を実施するなどしてはどうか。

○渡辺丈夫委員

幼児教育・保育の無償化により、無料だから預けなければ損だという考えが生まれ、0歳児の待機児童が多くなっている。そこで思い切って0歳児の無償化を廃止するのはどうか。それにより需要が減り、施設の受け入れ体制に余裕が生まれる。0歳児については、親が育児休業を取得して子育てをするようにする。育児休業を取得した従業員がいる企業や、親個人に対しての優遇制度を設ければそういった制度も進んでいくと思う。

また、新しく施設を認可することについて、本来の基準をしっかりと踏まえた形で認可してほしい。例えば500m離れたところに園庭があるなどといった施設もある。小規模保育を3歳から5歳に引き上げるといった話もあるが、幼児教育・保育の無償化に伴い、3歳児の受け入れは供給過剰となっている。そういったところも総合的に含めて計画を進めてほしい。

○奥山順子会長

それではまずは、保育士の確保について、事務局から回答を求める。

○事務局

Aターンとして、仙台の専門学校への周知に出向いているが、今後やり方を検討しながらやっていきたい。また、保育士としてのやりがいを伝えるため、高等学校に周知するなど、これから保育士となる人を支援していきたいと考えている。しかし行政だけで保育士の確保は困難であるため、施設からの協力もいただきながら取

り組んでいきたい。

○奥山順子会長

次に、多様な保育ニーズへの対応について、事務局から回答を求める。

○事務局

ニーズ調査などでも、休日保育の必要性は理解している。また、各施設での人的な負担についても認識しているため、事業の細部というか、やり方についてこれから検討していきたい。

○奥山順子会長

次に、児童虐待の増加傾向に対する、対応について事務局に回答を求める。

○事務局

児童虐待については、子ども未来センターでも職員が緊張感を持ちながら対応している。資料の中で、関係機関の連携を推進することと記載している。関係機関との連携は今までもしているが、それをさらに推し進めようというものである。先日は教育委員会の方と意見交換をしたところであり、今後は保育協議会などの関係機関とも意見交換を行っていききたいと思う。

○奥山順子会長

児童虐待防止には、未然防止が一番大事だと考える。これから親になる世代に対する啓蒙をしていただければと思う。

次に、障がい児の対応について、事務局から回答を求める。

○事務局

障がい児については、年々微増している状況である。市では障がい児を受け入れている施設に補助を実施しているが、その金額を上げて欲しいという要望もあり検討しているところである。また、放課後の子どもの見守り方などについても状況を見ながら研究していく。

○奥山順子会長

次に、経済的支援について事務局から回答を求める。

○事務局

副食費については、令和2年度に向けて、子育て施策全体をみた上で実施していくこととしている。第1子無償化などは、他の市町村に先駆けて実施したところであるが、渡辺委員のご意見などもありますので、今後の様々な事業の見直しを図りながら、事業を展開していきたいと思う。

○奥山順子会長

次に、長期的な施設整備・配置について、事務局から回答を求める。

○事務局

今後の施設の認可について現状を伝えると、子ども育成課および施設指導室にて施設整備に関連するデータを分析中である。まとめたものは報告していく。

○奥山順子会長

次に、パブリックコメントの実施について、事務局から回答を求める。

○事務局

パブリックコメントは、次期プランの素案の段階で実施する予定である。

○相場哲也委員

P 6 から「未婚化の進行」や「晩婚化の進行」など記載があるが、婚活支援について記載があるのは、基本目標 4 の「次代を担う子ども・若者の育成支援の充実」の中である。婚活について基本目標のひとつするぐらい、力を入れても良いのではないか。個別施策としては、2次プランを引き継いで実施するということだが、今までの延長ではなく、新たに何か講じなければならないのではないか。

また、先ほど渡辺委員の第1子を廃止して、育児休業の取得を促すというのは、政策としてはよいと思うし、むしろ国に提言するぐらいでよいと思う。

○事務局

秋田市ではシングルズカフェ秋田という事業は実施しているが、今後事業の評価をしながら進めていきたいと思う。

○奥山順子会長

それでは、資料 2 について事務局より説明をお願いします。

【事務局説明】

○奥山順子会長

ただいまの説明に対して、質問や意見はあるか。

○山崎純委員

P 1 3 の地域子育て支援拠点事業について、先日厚生労働省のデータを見たところ、組数での表示となっていたが、資料 2 の集計の仕方は市独自なのか。比較が子ども広場との比較ができなかったため、教えていただきたい。

○事務局

ニーズでは、人数で集計しているが、交付金で国に報告しているものは、組数で報告しているものもあるため、その数字と思われる。

○古田由美子委員

同じく P 1 3 の養育支援訪問事業について、量の見込みが、令和 2 年度以降もすべて 1 8 名というのはなぜか。

○事務局

この事業は虐待予防として実施しており、他のサービスとは違い、利用したいから利用できる訳ではなく、関係機関が養育が必要であると判断した上で利用するものであることから、大幅に増減することはないと考える。1 8 という数字は今年度の予算上の数字であり、昨年度実績が 1 4 件であったため、この先 5 年間で 1 8 件以上は増えないと見込んだものである。

○澤口勇人委員

P 2 の推計児童数について、例えば 2 0 1 9 年の 0 歳児が翌年 1 歳になると、増えているというのは転入などの要素があるのか。

○事務局

こちらの人数は、過去5年間の変化率を用いて算出しており、転入などの要素も加わっているものである。

○奥山順子会長

ほかにはないか。ないようなので、これをもって議事を終了する。